あなたが思う「よりよい社会」を一緒に創造しませんか。

世の中にはたくさんの「問題」があります。我々はそうした問題に向き合い、探究していくことで、問題の解決にチャレンジしていきます。
よりよい未来のために変化を創造する「チェンジ・メーカー」になりませんか？

Be a Change Maker

よりよい未来を実現するための設計図。それが「政策」です。それを設計し、実践する力――「政策デザイン力」は、公共・行政はもちろん、企業、NPO/NGO、市民活動など、社会のあらゆる所で求められています。よりよい社会の実現を目指すあなたにも不可欠の力です。

東北学院大学 地域総合学部

政策デザイン学科

Guide 2024

政策デザイン学科のカリキュラムモデル

3・4年次

主体的に探究する学びの集大成

演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年次）

卒業研究（4年次）

行政（国・地方政府）の視角から、共に生きるための政策を考える

格差社会論／社会保障論／社会保険論／地方財政論／社会福祉原論／労働政策論／公的扶助論など

社会経済システム全体との関係から地域社会をとらえる

地域経済データ分析／地域企業経営論／地域観光論／社会と開発／労働経済論など

公共行政領域

経済産業領域

政策デザイン

市民社会領域

地域で暮らす人々の多様性と、現実の社会問題について学ぶ

ジェンダーと政策／災害社会論／多文化共生論／シティズンシップ論／災害ボランティア・NPO論／人権政策論／地域防災・減災論／復興まちづくり論／障害学／災害とマイノリティなど

2・3年次

出会う・体験する・協働する

政策デザイン実習Ⅰ・Ⅱ

- ■ 被災地で活動するNPO法人
- ■ 児童館
- ■ 特別養護老人ホーム
- □ 多文化共生
- □ 差別問題の現場
- □ 海外実習

地域プロジェクト実習

地元企業や地方自治体と連携した課題解決型プロジェクト

1・2年次

専門の基礎を固める学びのスキルを身につける

基礎演習（少人数ゼミ）

SDGs概論／経済学Ⅰ・Ⅱ／公共経営論／政治経済学Ⅰ・Ⅱ／政策形成論／政策評価論／福祉国家論／公共哲学Ⅰ・Ⅱなど

※具体的な講義科目については、専門教育カリキュラム表を参照

3領域からの多角的アプローチで、未来の活躍につながる力を育成します。

少子高齢化・人口減少、地域活性化、災害と復興、多文化共生など、わたしたちが生きる現代日本にはすぐには答えの出ない社会課題が山積しています。地域社会で暮らし、学び、働くわたしたち一人ひとりが「よりよい地域をつくる、よりよい社会をめざす」主体となって、他者と協働しながら、さまざまな社会課題と向き合い解決を図っていく。そんなふうに、地域社会への貢献を志向するみなさんにたいし、政策デザイン学科の教育カリキュラムは未来の活躍につながる力をつけるための学びを提供します。

学科の専門教育は「公共行政」「経済産業」「市民社会」という3つの領域を柱としています。経済学、経営学、財政学、政治学、社会福祉学、社会学、文化人類学など多様な専門性をもつ教員スタッフがみなさんの学びを支え導きます。

もうひとつの特徴は、学外での実習が充実している点です。現場の人々との出会いをとおして、現実の社会課題にたいする認識を深めます。

学科長　黒坂　愛衣

政策デザイン学科で得られる「5つの」力

「バタフライ効果」という言葉があります。蝶の羽ばたきが遠方で嵐を引き起こす、すなわち「非常に小さな動きが最終的に予期せぬ大きな動きにつながること」を意味しています。社会全体からすれば、みなさん（蝶）の羽ばたきは微々たるものです。でもその羽ばたきにこそ、よりよい地域社会を創る（「変革する」）力が宿っているのです。

みなさん一人一人が学びを深めて羽ばたくことで、よりよい地域社会を創る主体となるよう、蝶のビジュアルに願いを込めています。

共感力

当事者の声を
共感的に聞いて、
問題の複雑さを知り
深く理解する力

協働力

公・共・私それぞれの
立場の人々を巻き込み、
ともに解決策を
実現する力

思考力

公・共・私それぞれの
視点から課題の解決策を
多角的かつ
論理的に思考する力

発信力

新たな解決策を
多くの人々に届け、
理解・賛同して
もらえる力

創造力

既存のルールにとらわれず、
試行錯誤して
新たな解決策を
提示できる力

政策デザインのための5つのスキル
Vスキルズ

政策デザイン学科では3領域からなる多様な専門科目と少人数の演習科目、社会と密接に関わり協働していく実習科目を通じて、5つの力を磨いていきます。それは政策デザインを進めるための基本能力でもあります。政策デザイン学科の学びの特長は、「理解すべき」「協働すべき」「働きかけるべき」相手がいること。ただ知っているだけでは済まされない、もう一歩先、もう一段深く、望まれるものを実現していくための努力が求められます。得手不得手はあるでしょう。それを克服するために、教員がいます。仲間がいます。社会の人達がいます。その人達の力を借りて、自らの政策デザイン力を高めていってください。

公共行政領域のチェンジメーカー
Public Administration

公共行政領域では、社会保障などの政策や、政策を支える財政などについて学び、行政（国・地方行政）の視角から、共に生きるための政策を考えます。

熊沢 由美 教授
社会保障論、社会保険論、格差社会論

熊沢先生が考える「政策デザイン」とは？

政策デザイン学科でいう「政策」は、国や地方政府だけでなく、私たちが地域の問題を解決しようとしたり、よい良い生活のために行なう取り組みも含まれると考えています。私は（株）GreatValueとビジネスモデル特許を取得したのですが、その特許で、地域での助け合いを促進しながら地域おこしに結びつける事業が始まっています。地域や私たちの生活をより良くしていくために、私たち一人ひとりが地域や社会に関心をもって、協力し合いながら、学んで、立案して、取り組んでいく。それが「政策デザイン」だと思います。

公共行政領域は、どのような領域でしょうか？

公共行政は、国や地方政府の視点から、共に生きるための政策を考える領域です。皆さんが「政策」としてまずイメージするのは、社会保障や労働政策、環境政策など、国や地方政府が実施するものではないでしょうか。その「政策」は、地域に暮らす人たちの生活を支える重要な仕組みです。公共行政領域では、具体的にどのような仕組みがあるのか、今どのような課題に直面しているのか、など、「政策」について理解を深めるとともに、「政策」を支える財政や政治、地方自治などについても学びます。

熊沢先生が担当される講義や、研究分野について教えてください。

主な担当科目は、社会保障論、社会保険論、格差社会論です。これらの講義では、主に、日本の社会保障について取り上げていきます。私たちは、生まれる前から母子健康手帳をもらうなどして社会保障と関わり始め、その後も、児童手当をもらう、保育園を利用する、医療保険や介護保険を利用する、年金をもらう、などさまざまな場面で社会保障と関わり続けて生きていきます。そうした社会保障がどのような仕組みになっているのかを知ること、そして、これからどのように変えていくべきかを考えることは、日本で生活する私たちにとって、とても重要なことであると思います。

高校生のみなさんに向けて、メッセージをお願いします。

国や地方政府が実施する「政策」や財政・政治などについては、自分からは遠いところで決められたり実施されたりしているもの、なんだか難しいイメージのもの、と感じている人もいるかもしれません。しかし、私たちが生活している地域には、国や地方政府が実施する「政策」によって作られた仕組みやルールがたくさんありますし、社会保障のようにすでに皆さんが関わっているものもあります。国や地方政府が実施する「政策」をより良いものにするために、そして、皆さん一人ひとりがより良い人生を送れるように、国や地方政府が実施する「政策」について関心をもち、学んでほしいと思います。

石川 真作 教授
多文化共生論、シティズンシップ論

私は政策デザイン学科で、「多文化共生」と「シティズンシップ」に関わる授業を担当します。大まかにいえば社会に外国人住民をどう受け入れ共生していくかについて考える科目です。

外国出身の人びとも、地域においては同じ「住民」です。また、言葉や生活様式の違う人びとと見られがちですが、人間が考えたり感じたりすることは大抵似通ったものです。

Think Globally, Act Locallyという言葉があります。遠くの世界の出来事から学ぶことはたくさんあります。世界中どこでも誰かの「地元」です。地元で生きていきたいと思っている人こそ、世界の様々な物事を知ることでより良い地元を築いていくことができると思います。

市川 樹 講師
福祉国家論、福祉政策と地域、特殊講義

私たちの日々の生活は、実は政府の活動と大きく関係しています。皆さんも、買い物をするときに、消費税を払っていると思います。皆さんが支払った消費税は、政府の様々な活動に使われます。福祉国家論及び福祉政策と地域では、現代の政府の活動の中で特に重要となる社会保障や社会福祉のあり方、税金のあり方、具体的な地域社会における政府の役割等を取り扱っています。私自身は、特に2000年から導入された介護保険の実態を調査・研究しています。皆さんには、講義の内容が自分たちの日々の生活に関係していることを意識し、社会の在り方について興味や関心を広げてもらいつつ、実際の政治に関心をもってもらいたいと思います。

佐久間 香子 准教授
SDGs概論、社会と開発

地理的に離れているからといって、その地域やそこに暮らす人びとの生活と、日本に暮らす私たちの生活が無関係だなんて思っていませんか？現実は全くその逆です。私たちの暮らしは、否応なしに世界のどこかの地域とつながっています。

重要なことは、現在はこうした問題を私たちが知らないままでいい時代ではないということです。皆さん自身がどんな社会で生きていきたいかを具体的に考え、「よりよい社会」をデザインしてみませんか？

本学科では、自ら問いを立てて積極的に行動する学生を歓迎します！

定池 祐季 准教授
地域防災・減災論、復興まちづくり論

私は北海道南西沖地震（1993年）を、津波による大きな被害を受けた奥尻島で経験したことをきっかけに、災害研究者になりました。災害社会学・地域社会学という学問を通して、防災教育や被災者支援、災害復興へのお手伝いをしながら、人々の生活や地域社会の変化を長期的に見ています。被災地の心のケア活動に関わることもあります。学生のみなさんとは、資料を読むだけで無く、実際に地域を歩いたり、人の話を聞いたりしながら、人々の生活に結びついた防災・減災活動や生活再建、災害復興について一緒に考えていきたいと考えています。

経済産業領域のチェンジメーカー
Economic Industry

経済産業領域では、地域社会を地球規模の社会経済システム全体との関係からとらえ、グローバルな視野で地域の問題の把握と解決を目指します。

伊鹿倉 正司 教授
金融入門、地域金融論、地域経済データ分析

伊鹿倉先生が考える「政策デザイン」とは？

政策を「デザインする」とは、私たち一人ひとりが主体となって、地域課題を解決するための政策を様々な人々と共に創ることを意味します。また政策をデザインするためには他者への共感が不可欠です。このように政策デザインとは、非常に人間味溢れる政策立案といえます。

地域課題が多様化かつ高度化するなか、現代社会はAI（人工知能）の活用を通じた解決を模索しています。そのような解決方法も大いに有効だと思いますが、私は私たち人間が持つ豊かな感性や能力、さらには他者への「愛」の力を信じたいと思います。

経済産業領域は、どのような領域でしょうか？

地域社会には、少子高齢化や人口減少、国際競争、教育格差など、様々な課題が存在しています。経済産業領域では、主に経済学や経営学の観点から、こうした地域課題の本質を理解し、課題解決のための政策を提言する力を養っていきます。また、近年、革新的なビジネスの手法を用いて地域課題を解決しようとする動きが広がっており、そのような取り組みを行う人々を「社会起業家」と呼びます。経済産業領域では、社会起業家の具体的な取り組みを紹介することで、「ソーシャル・イノベーション（社会変革）」の考え方を身につけてもらいます。

伊鹿倉先生が担当される講義や、研究分野について教えてください。

私の専門分野は金融論です。金融取引は、他人同士のお金の貸し借りや現在と将来のお金の貸し借りといった特徴を有しますが、いずれにおいても貸したお金が返済されないといった可能性が伴います。このような可能性があることで、自分の状況を改善するために金融取引を利用したい人々が金融取引を利用できないといった問題が生じます。私はこれまで20年以上にわたって、その問題を解決するための仕組みを研究してきました。

近年、様々な理由により十分な金融取引を利用できない人が地域社会で増加しています。そのような人々が存在しない状況を「金融包摂（きんゆうほうせつ）」と呼びますが、金融包摂をいかにして実現できるのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。

高校生のみなさんに向けて、メッセージをお願いします。

「失敗は成功の母」ということわざがあります。これは、失敗してもその原因を追求したり、欠点を反省して改善していくことで、かえって成功に近づくことができるということを意味したものです。高校生のみなさんには、若い時にどんどん失敗を経験してもらいたいと思います。政策デザイン学科では、みなさんが数多くの失敗を経験できるような機会を提供していきますし、その失敗がみなさんの成長につながるようにサポートしていきたいと考えています。

奥山 忠裕 教授
経済学Ⅰ・Ⅱ、経済学概論、政策評価論、環境政策論

高校生の皆さん、はじめまして(・∀・)ノ　経済学を担当する奥山といいます。地域総合学部なのに経済を勉強するの？と思う人もいるかもしれません。でも、地域の人々の生活を支える経済についての基礎的な知識は、地域活性化や高齢化社会などの問題の解決策を考える上でとても大事な学習項目です。売れる商品と売れない商品があることは皆さんも知っていると思います。地域の特産物が売れると地域の経済にとってもいいことですよね。でも、売れすぎると買えない人がでてきます。つまり、「売れているのに売れない商品」になってしまうのです。とても変なことですよね。この変なことをきちんと論理だてて学ぶのが経済学の講義です。

河村 真実 講師
政治学入門、公共哲学Ⅰ・Ⅱ

近年、国内外で、文化の違いから生じる衝突や分断が指摘されていますが、私は、こうした問題に着目し、一つの社会の中で多様な文化的背景を持つ人々の共存を目指す多文化主義について、政治哲学・政治理論の観点から研究を行っています。担当する講義では、現代社会で前提とされている政治的・社会的仕組みや制度について、その基礎となる理論や概念を学習し、社会的課題を理解することを目標としています。講義を通して、現代社会が抱える課題やその解決の糸口等について、みなさんと学べることを楽しみにしています。

佐藤 滋 教授
財政入門、地方財政論、公共政策分析

世の中には、必要であるにも関わらず、人々に受け入れられにくい政策がいくつもあることをご存知でしょうか。例えば、格差が拡大するなかでさえ、貧困対策には十分な支持が集まりにくい傾向が多くの国で観察できます。倫理的に「正しい政策」が、必ずしも人々に受け入れられるとは言えないわけですね。それでは、どのような政策が、政治的に承認可能でかつ格差是正に有効なのか。私はこうした問題について考えるために、税や社会保障に対する「納税者の同意」の問題を研究しています。考えることや議論が好きな、一般には「変わっている」と言われがちな学生を待っています。

宮地 克典 准教授
労働経済論、労働政策論
グローバル時代の労働問題入門

「すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負う」。日本国憲法27条の条文ですが、私の担当する労働経済論では労働に関する「理論」を取り上げ、労働政策論では労働者を保護する「政策」について講義します。

皆さんの多くは、今後労働者となるでしょう。他方、「ブラック企業」に代表されるように、今なお労働をめぐって様々な問題が起きています。「よりよい社会」の実現のためには、「よりよい労働」の実現が不可欠であり、労働に関する知識がないと改善すべき問題とすら理解できません。ぜひ労働に興味関心をもってください。

市民社会領域のチェンジメーカー
Civil Society

地域で暮らす人々の多様性と、現実の社会問題について学びます。
災害が多発する日本では避けて通れない、防災減災や復旧・復興についても学びます。

齊藤 康則 准教授
災害社会論、災害ボランティア・NPO論

齊藤先生が考える「政策デザイン」とは？

政策と聞くと、どうしても政府・自治体をイメージしがちです。しかし、まちづくり、環境保全、子育て支援など生活に関連する多くの領域で、多様な取り組みを展開してきた市民活動団体は、社会の仕組みを変えるための「政策提言」も同時に行ってきました。

もちろん政策提言を踏まえて社会にマイナーチェンジを施しても、時間経過とともに別様の問題が生じることでしょう。それゆえ「政策デザイン」とは、一度なんらかの形を生み出せば完成とはならないのです。常に社会を観察し、少数者の不利益を発見し、そこに変革をもたらそうとする、現在進行形の志が重要になると思います。

市民社会領域は、どのような領域でしょうか？

公共行政、経済産業に次ぐ第三の領域で、英語圏では「サードセクター」と呼ばれます。では、この市民社会領域において、どのような団体・組織がどのような取り組みを行うのでしょうか。私たちの生活に身近なケースから考えてみましょう。

たとえば、町内会・自治会は住民同士の交流にはじまり、高齢者福祉、地域防災などの活動を展開しています。災害が発生すると、被災者の生活支援や復興まちづくりなどで、ボランティアやNPOが活躍することは、みなさんもよくご存知のことでしょう。

日本では、阪神・淡路大震災をきっかけとしてNPOが増加しました。近年は、子ども食堂の運営や生活困窮者の支援などで、市民社会領域の重要性が増しています。

齊藤先生が担当される講義や、研究分野について教えてください。

私はこれまで東日本大震災の被災地で、仮設住宅や災害公営住宅のコミュニティ形成について研究してきました。最近は、被災した農地の復旧にあたる農業ボランティアの取り組みについて、九州北部豪雨や西日本豪雨の被災地で調査しています。

災害は自然現象であると同時に社会現象です。異なる災害であれば、同じ災害でも被災地域が異なれば、その後の復旧・復興は異なるプロセスを辿ることになります。

担当する災害社会論では、これまでに発生した災害における被災者支援や復興まちづくりの取り組みについて、皆さんと一緒に、具体的に考えていきたいと思います。

高校生のみなさんに向けて、メッセージをお願いします。

高校までの勉強が、教科書や参考書に学びながら正解を導き出すものだとすれば、大学での学修は自分自身で問いを立て、それに対する答えを見つけていくものです。

そのためには、どうすれば良いでしょうか。図書館にある文献を読んで知識量を増やすことは重要ですが、それはあくまで必要条件であって十分条件ではありません。

大学生活を通して、みなさんのアンテナを高くしてください。国内外、色々なところを歩き回ってみましょう。これまでみなさんが暮らしてきたのとは、別の社会の像が浮かび上がってくるはずです。その気づきが、みなさんのオリジナリティを鍛えてくれます。

黒坂 愛衣 教授
現代社会問題論、人権政策論

日本では1996年まで、ハンセン病にかかった人を療養所に隔離することを定めた法律がありました。この隔離政策と、病気にたいする社会的差別のもとで、ハンセン病だった方々やそのご家族の身の上になにが起きてきたのか、当事者の人生体験の聞き取りをして研究しています。

「現代社会問題論」の授業では、ハンセン病問題や部落差別問題、セクシュアリティをめぐる問題など、日本社会で生じている差別問題について学びます。社会的少数者（マイノリティ）と社会的多数者（マジョリティ）とでは問題の見え方がまったく違うことに気付き、当事者の声の重要性を学びます。

「よりよい社会づくり」を考えるとき、社会的少数者を“いない”ことにするのではなく、ともに生きる社会という価値観を大事にしてほしいです。

小宮 友根 准教授
ジェンダーと政策、日常生活とジェンダー

私が専門にしているのは、人と人とがおこなうコミュニケーションの構造の研究です。社会はコミュニケーションから出来上がっており、それゆえ社会を変えること、社会を変えるための政策を考えることには、人々がおこなうコミュニケーションの仕方を変えることが含まれます。ジェンダーに関して私たちがどのようなコミュニケーションをおこなっていて、そこにどのような問題があり、どう変えていくことができるのか、自分自身の問題として考えることができる学生を待っています。

武藤 敦士 准教授
社会福祉原論、公的扶助論

私が専門とする社会福祉学に関する講義では、人々の生活を守る最終最後の砦となる制度・政策や支援の方法について学びます。研究者としては、子育て世帯のなかでも最も生活問題を抱えやすい母子世帯を対象に、その原因の究明や支援のあり方に関する研究をしています。誰もが安心して暮らすことができる社会を実現するには、一人ひとりが社会に関心をもつ必要があります。日ごろから人々の生活や様々な情報に耳目を傾け、「知る」力を養い「なぜなのか」を考える意欲を醸成してください。

和田 正春 教授
公共経営論、地域企業経営論、地域観光論

何かを実現したい、問題解決を進めたい、と考える時に必要になるのが「マネジメント」です。マネジメントは関わる全ての人々の希望を知り、調整し、目指すべきものが実現されるようシステムを構築していく仕事です。責任を持って解決に取り組むにはシステムは不可欠ですが、一度出来上がったシステムは硬直化し、問題の変化を見落としがちになります。社会の解決のための取組を探り、その改善を進めると共に新たな解決を実現していきます。私にとっての政策デザインは理想を実践するための論理的探究です。決して容易な道ではありませんが、その難題に一緒にチャレンジしていきましょう。

専門教育カリキュラム表

			1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	専門基盤科目		SDGs概論 経済学 I・II 公共経営論	政治経済学 I・II 政策形成論 政策評価論 福祉国家論 公共哲学 I・II 企業倫理 I・II 地域社会論 共同体と市民社会		
	領域専門科目	公共行政	社会保障論 財政入門 政治学入門	社会保険論	地方財政論 格差社会論 社会福祉原論 労働政策論 環境政策論 公的扶助論 公共政策分析 福祉政策と地域 地方自治論 行政学	
		経済産業	地域産業論 金融入門	グローバル時代の労働問題入門 地域経済データ分析 地域企業経営論 加齢経済論 I 国際貿易論	加齢経済論 II 地域金融論 地域観光論 社会と開発 労働経済論 日本経済論 日本産業論 地域政策論 東北経済論 東北開発論	
		市民社会	現代社会問題論 日常生活とジェンダー	災害社会論 多文化共生論	ジェンダーと政策 人権政策論 災害ボランティア・NPO論 シティズンシップ論 地域防災・減災論 復興まちづくり論 障害学 災害とマイノリティ	
	演習・実習・特殊科目		基礎演習	政策デザイン実習 I・II 特殊講義	演習 I 地域プロジェクト実習	演習 II 卒業研究
	専門関連科目			憲法 I・II 民法総論	行政法総論 労働法 商法 家族法	社会保障法

政策デザイン学科の実習・演習

政策デザイン学科では多様な実習が用意されています。地域の協力の下、地域課題の理解を深め、実際の社会の複雑さ、課題の難しさを体験すると共に、実際に課題に取り組む人々と協働していく中で、問題解決力を高めていくことを目指しています。実習・演習は、Vスキルズを高め、実践するための重要な機会なのです。

実習テーマ例

熱帯アジアから私たちの暮らしを考える

マレーシアの熱帯雨林を訪問し、そこでの自然や人をとりまく状況を、私たちの日常と関連付けて考えます。

多文化共生を学ぶ

NPOなどによる外国人支援の現場やイベントに参加するなどして、外国人住民、NPO関係者や学生と交流しつつ、様々な取り組みを学びます。

- 「社会で子育てする」意義を考える
- 当事者の語りから社会問題を学ぶ
- 社会福祉の現場から、生活問題を学ぶ
- NPOの社会的意義を学ぶ

代表的な講義

SDGs概論

近年「SDGs」という言葉をよく聞きます。この授業では、SDGsの表面的な理解ではなく、その背景とその具体的内容について、開発概念のパラダイムシフトの過程から考察してSDGsのフレームワークを整理します。

格差社会論

「一億総中流」と言われた日本。この授業では所得格差の現状や、雇用格差、健康格差などについて学ぶとともに、格差を是正するための取り組みについても学びます。アメリカなど、諸外国の格差にも目を向けます。

ジェンダーと政策

ジェンダー問題の解決には、様々な政策的手段が不可欠です。この授業ではジェンダー・セクシュアリティに関する問題を解決するための政策について国内の歴史と国内外の状況を学ぶことで、政策を考えるための視点を身につけます。

地域経済データ分析

近年、科学的根拠（エビデンス）に基づいて政策を立案しようとする動きが広がっています。この授業では地域の現状、課題、将来、政策効果を「見える化」することで、地域課題の有効な解決策を提案できる力を身につけます。

卒業後の進路

本学科の学びで身につけた力は、さまざまな職種に生かすことができます。公・共・私のそれぞれの現場で、よりよい地域をつくるチェンジ・メーカーとして活躍することが期待されます。

- 民間企業で働き、地域社会の発展に貢献する。仕事をとおして国内（外）の社会課題の調査や解決に取り組む。
- 政府機関や非政府機関（NGO）、NPOなどで活躍する。
- 公務員として、公共政策の遂行やふるさとの発展、復興に貢献する。
- 起業して地方経済の活性化に取り組む。
- 学校教員になり、地域の子どもたちの教育に携わる（中学校社会・高校公民の教員免許が取得可能）。
- 自治体、企業、NPO、市民活動など。

取得可能な資格

教育職員免許状
- 中学校1種：社会
- 高等学校1種：公民

社会福祉主事任用資格

求める学生像

1. 十分な基礎学力を有し、本学科の教育内容とその特色をよく理解している。
2. 本学科で学びたいという明確な意志をもち、それを自分の言葉で表現することができる。
3. 地域が抱える具体的な社会課題に関心をもっている。
4. 行政や政治のありよう、経済や社会のしくみ、住民や事業体の協働といった観点から、地域課題の探究および解決への貢献に意欲がある。

※ 各種推薦入試、総合型選抜試験の受験を希望される方は必ず最新の受験ガイドを参照してください。

FAQ

Q1
公務員受験に有利ですか？

政策デザイン学科は必ずしも公務員養成だけを目的とした学科ではありませんが、カリキュラムは公務員試験（行政職）の一次試験（専門科目）や二次試験（小論文・面接）に対応しています。また、学科の学びは公務員の仕事内容に直結しています。

Q2
地域コミュニティ学科との違いは何ですか？

地域課題の「探究」に力点をおくのが地域コミュニティ学科だとすると、地域課題の「解決」に力点をおくのが政策デザイン学科だといえます。

Q3
法学部や経済学部、経営学部との違いは何ですか？

政策デザイン学科は、公-共-私の連携により、地域課題の解決を模索します。
そのため、多様な学びを組み合わせているところ、地域での現場の学びが充実しているところに他学部との違いがあります。

Q4
「デザイン」が学べるそうですが？

デザインといっても美術やCGを学ぶわけではありません。
政策デザイン学科のデザインは「ソーシャル・デザイン」といわれる新しい領域でよりよい社会を実現するために、社会を分析し、設計し、変化させていくこと全体を学びます。

興味を持たれた方は
オープンキャンパスや説明会に
お越し下さい！

東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY
https://www.tohoku-gakuin.ac.jp

最新の情報は
HPでご覧下さい

政策デザイン学科HP